

存在の普遍的法則*による純潔な性の具現

—統一思想の視覚から—

文相喜
韓国 鮮文大校

性は人類共同体を形成する根源だ。人類歴史は性から始まって、性によって続いていくとみることが出来る。家庭と人類共同体の安定と福祉、そして歴史の発展のために性の秩序が要求される。性の秩序は共同体構成員の性意識と性態度によって形成され、その性意識たちの普遍的法則が性規範だ。¹⁾ 家庭と社会で性の秩序を維持するためには、家庭と社会構成員たちが性規範を守ってこそ可能だ。存在の普遍的法則、すなわち性規範を守る生が純潔な性の人生を送ることだと言える。純潔な人生を送るという意味は、純潔な性の具現を意味する。性規範は人間が純潔な生を生きて行く基準であり、純潔な生を生きなければならない理由を語り、純潔な生へ案内して、純潔に生きて行く方法を教えてくれる。²⁾

この論考は性規範を守る人生としての純潔な性が何であり、どのような人生を送ることが純潔な性の具現なのかを探索して、歪曲された性意識と性態度を根源的に解決することができる、純潔な性規範教育を、その解決案として提案する目的がある。この文は統一思想の視覚で、存在の普遍的法則による純潔な性の意味から論議を展開しようとするものだ。

核心主題語: 性意識、性態度、性の秩序、性規範、普遍的法則、純潔な性

* 統一思想は普遍的法則を天法、または天道ともいう。この法則は人間の作った法則ではなく、創造主である神のロゴスが法則として現われたと説明する。ロゴスは神の青写真、構想、計画、思考を意味し、ロゴスは理性と法則である。理性と法則は統一の関係として自由性と必然性の統一である。神の理性は人間の理性と区別される。被造物が低次元になるほど法則的要素が多く、高次元の人間には理性の要素がもっと多く作用する。そのため人間には理性的要素のみが作用して、法則的要素は全くないようであり、鉱物には法則的要素のみ作用して理性的要素はないようだが、全ての被造物には理性的要素と法則的要素が一緒に統一的に作用すると説明している。それ故宇宙、自然世界、そして人間世界の全ての存在は、理性的作用と合わせて普遍的法則によって存在、作用、運動、繁殖、発展するのである。

** 統一思想とは、神主義、または頭翼思想という。神主義とは、神の真理と愛を核心とする思想をいい、頭翼思想とは右翼でもなく左翼でもない、更に高い次元で両者を包容する思想をいう。統一思想は神様の下、人類大家族主義の理念を実現すると同時に、人類の難問題を解決する神様の思想をいう。統一思想は文鮮明先生思想であり原理講論、み言選集約500冊、そして李相憲先生が哲学的体系として1973年に整理した統一思想要綱によく説明されている。

I. 始めに

性は人間が存在することができる根源だ。人間は親の性を通じて人間の存在として誕生するようになる。人間は自分の独自の意志や計画、または自分の選択や希望事項が考慮される余地は全くなくて親を通じてこの世の中に生まれる。³⁾ 人間は親が生んでくれた生物学的性である男性、あ

るいは女性として生まれ、社会的性として社会が期待する男性、女性としての性の役割を遂行して、全人格的な性として個性を持って固有の人生を生きていく。

両性はそれぞれ男性、女性の身体的、心理的特性を持っており、その特性はお互い対立的ではなく相互依存的で、協力的で、補完関係として生存、繁栄を追求しながら、お互いが合一的な調和による男性性と女性性として、それぞれの人生を生きていく。

人間の存在意味は、一方の性だけの意味で説明することができない。人間は男性と女性の結合による一番基礎的な夫婦共同体の家庭を成して、子女を出産して血縁的家系を形成して、親族、氏族、民族、国家、さらに進んで世界を形成する。性は人類共同体を形成する根源だ。それ故人類歴史が性から始まって性によって続いていくと言う事ができる。家庭と社会共同体の安定と福祉、そして発展のために性の秩序が要求される。⁴⁾

性の秩序は家庭と社会共同体構成員たちの安全のためのものであり、家庭と社会構成員共同の利益と繁栄のために必ず必要だ。

しかし私達の家庭と社会は、多様な性問題発生による性の無秩序の中で疲れ、病んでいる。多様な性問題の発生要因の中で、大衆文化の享樂的性の商品化は、歪曲された性意識と性態度を樹立する性の社会化の媒体として作用していて、性問題を起こす要因として作用する。⁵⁾ また家庭と社会の問題である二重的性規範の特性は、男性の立場で自分の妻と娘は純潔なのを願いながら、自分が楽しむ性的快樂の対象は純潔と無関係だという性意識が問題である。一方性の秩序を正しく立てなければならぬ家庭と学校教育が、性の無秩序を正しく立てにくい実情に置かれている。

⁶⁾ 従って私達の社会は歪曲された性意識と性態度を持った既成世代たちの性の乱れはもちろん、青少年たちの性問題は日増しに深刻性が高まっている。

性の秩序は共同体構成員の性意識と性態度によって形成され、その性意識の法則が性規範だ。⁷⁾ 言い替えれば、性規範とは家庭と社会で性の秩序を成すために、そこから起きる人間の統一された性意識と性行動の基準として、理由として、案内として、方法として作用する法則的枠といえる。性の秩序を維持するためには、人間が必ず従って守らなければならない、統一された基準の決まった法則がある。その法則はすべての存在世界の存在が順応しながら守る、存在の普遍的法則だ。

普遍的法則を人間の性に適用すれば、性規範を守る生き方は、純潔な性意識と性態度を持った行き方だとその意味を付与できる。性規範は人間生活において、個人の性行為のための規範である同時に、家庭で夫婦が従わなければならない性規範があり、夫婦以外の他人との性行為や性関係を制裁する、社会的関係として守らなければならない性規範がある。⁸⁾ 家庭の性の秩序は社会の性の秩序の根幹になるため、家庭を構成している家族構成員一人一人が性規範に従った純潔な性意識と性態度で性の秩序を維持したなら、私たちの社会は健全な性の秩序を維持するようになるだろう。⁹⁾

この論考は、性規範を守る人生における純潔な性が何であり、どのような生き方が純潔な性の具現であるのかを探索し、歪曲された性意識と性態度を根源的に解決できる純潔な性規範教育を、

その解決案として提案する目的がある。この文は統一思想の視覚から、存在の普遍的法則による純潔な性の意味について論議を展開しようとするものである。

II. 純潔な性の意味

私たちの家庭と社会で性の秩序を維持するためには、家庭と社会の構成員たちが性規範をきちんと守る人生を送らなければならない。性規範を実践しながら生きる時、純潔な性意識と性態度を持った純潔な生を送るという意味を付与できるのであり¹⁰⁾ 純潔な生を具現しようとするれば、純潔な性が何であるかを模索する必要がある。純潔な性に対して、多様な解釈の意味があるため、具体的な純潔な生のために、純潔に対する明確な発展的再解釈が必要だ。この論考は、純潔の意味に対する解釈の中で、代表的な辞書的純潔の意味、韓国の伝統的純潔の意味を調べて、既存の純潔の意味を補うことができる、統一思想の視覚から見た純潔の意味を調べようとするものである。

1. 辞書的純潔の意味

純潔は、漢字的な解釈をする時、純は‘生糸、糸、純色の絹、純粹、混じりのない’という意味があり、潔は‘きれい、品行が正しい、清潔にする、体を清める’という意味がある。辞書の意味から見ると、第一に純粹できれいな状態にあること、第二に女性が性的経験をせず、処女の身を守っている状態をいい、第三に男性や女性が乱れたり不道德な性関係を結ばずに、精神的、肉体的に清い状態にあることを意味するとある。第一の意味は純潔という単語そのものを解釈したもので、第二の意味は伝統的な社会的通念によって現われた意味であり、最後の意味は第一と第二の意味を調和させたものだと見ることができる。¹¹⁾

2. 伝統的純潔の理解

韓国の伝統的な性の歴史の中で、他のどんな時代よりも純潔な生を強調した朝鮮時代が、韓国の伝統的純潔を代表する時代であるため、朝鮮時代の純潔の理解に対して言及しようと思う。朝鮮時代の純潔観は、特に女性に強調する規範的で、法的、制度的純潔観だといえる。それは女性が純潔であってこそ家父長である夫の純粹な血統を引き継ぐ子孫を生むことができるという理由で女性にだけ純潔と貞節を強調したため、現代社会の視覚から朝鮮時代の純潔観は女性を縛るくびきとして見るようになった。男性は妾を持つことが可能だったし、妓生たちと浮気を自由にしても許される、純潔の二重の規範が適用される家父長制度の下で、伝統的な純潔の生は女性にだけ適用された。¹²⁾

朝鮮時代の伝統的な純潔は、女性だけに強調する一方的で禁欲的な純潔の意味として理解するという愚を犯した。伝統的な純潔は純潔の内容が間違っていたのではなく、純潔な生を女性だけに強要し、男性は純潔な生と無関係な立場にいても許されるという家父長的制度が間違っていたのだ。即ち、自分の妻と娘には純潔な生を生きることを要請する一方、男性たち自身だけでなく、男性たちと楽しむ女性たちには純潔な生が要請されないという二重的性意識と、二重的性規範がそのまま適用されている家庭と社会的制度が誤った制度だと言える。

問題の所在は純潔な性にあるのではなく、朝鮮時代から現代に至るまで男性の二重の性規範意識

と、それを適用させる法的制度にあるということを明らかにしなければならない。それ故、純潔な生を拒否するのではなく、誤った男性たちの二重の性規範意識と法的、社会制度的な問題を正しく解いていかなければならないのである。男女に等しく統一された性規範が適用される家庭と社会制度によって、性の秩序が維持されなければならない。

3. 統一思想の視覚から見る純潔の意味

統一思想から見る純潔は、辞書的、伝統的純潔の意味とその本質は変わらない。しかし純潔な生の具体的な実践方向を樹立するために、更に具体的で明確な発展的意味に再解釈する必要があると思う。純潔は人間個体が成さなければならない大切な徳目として、精神的、肉体的に清い状態として理解するため、男女関係として多様な価値活動をする時、基本的に必ず持たなければならない人間の意識と態度として、核心的意味と広義の意味から説明することができる。

1) 純潔の核心的意味

辞書的、伝統的、キリスト教的な純潔の意味は、統一思想から見る広義の純潔の意味より、核心的純潔の意味に近い。核心的純潔の意味は、本然の人格を完成するために、男女がそれぞれ精神と肉体的に純粋で清い状態で、ただ一人の結婚した配偶者だけと人格的な性関係を結ぶものだ。

¹³⁾

肉体的に清いとは、親から与えられた体をよく管理することで、乱れた性関係や傷つくことなく成長することを意味するものだ。精神的純潔は本然の人間の特徴を調べることで分かる。統一思想によれば、本然の人間は神様の形状に似せて創られたとある。¹⁴⁾人間の本来の姿は神様の(神相)に似て、性相と形状の統一¹⁵⁾であり、心の作用は性相的作用の生心と、形状的作用の肉心がある。¹⁶⁾

本然の人間の精神的純潔の意味は、生心の機能である知、情、意による真、美、善の価値を追求して実現する作用が主体であり、肉心の機能である衣、食、住、性の価値を追求して実現する作用が対象になり、生心と肉心の作用が均衡を成した心を意味する。

即ち、生心の作用が主体となり、肉心の作用は生心の作用のための手段であり、方法にならないということだ。

生心と肉心の心が均衡を成した人間は、神様の(神相)に似ていて、陽性の実体である男性と、陰性の実体である女性が、統一的調和体として結婚によって一体を成すようになる。男性と女性は、それぞれ心と体が統一を成した人格体として、婚前に他の異性と性行為や性関係を持たず、婚後はただ配偶者だけと性行為や性関係を行うことで、真、善、美、真の愛を追求し実現しなければならない。

2) 広義の純潔の意味

広義の純潔の理解は、創造本然の人格を完成するために社会的、文化的環境のすべての価値領域で、人間の存在目的を果たすために性規範を守る意識と態度をいう。¹⁷⁾

人間は関係的な側面から、格位的存在¹⁸⁾であると同時に、連体的存在¹⁹⁾である。個人が家庭と社会において、性の秩序維持のために存在位置を離れず、お互い有機的な連関性を持った人間関係をいう。格位的で連体的な存在としての人間活動は、家庭と社会の多様な共同体の価値活動の領域、即ち倫理、政治、経済、教育、社会、芸術、科学、スポーツなどの生の場において、存在目的を果たすための性規範的意識と態度を持った生をいう。

家庭での格位的で連体的関係とは、親子の関係、夫婦の関係、兄弟姉妹の関係の上中下、右中左、前中後として7つの格位があり、その中心点を焦点にした6方向の各位置が連体的関係を成している。²⁰⁾ 個体が家庭において格位が決まるのと同じく、家庭の7つの位置が社会共同体にそのまま拡大適用される。²¹⁾ 性規範的意識と態度は、核心的意味の純潔な生を土台に格位的、連体的存在として、普遍的法則を生において実践することをいう。

統一思想から見る純潔の意味は、人間の墮落とは関係のない創造本然の姿として、神様の性相と形状、陽性と陰性にそのまま似た姿を意味する。言い替えれば、純潔の核心的意味と、広義の意味を全て含み、神様の姿に似た生が純潔な生であるということだ。

III. 普遍的法則の遵守は純潔な性の具現

上で純潔な生のための純潔な性の意味を、核心的純潔の意味と広義的純潔の意味から明瞭化した。純潔な生の意味を明瞭化する窮極的目的は、純潔な生の実践を通して純潔な性を具現することだ。純潔な性を具現するために、どのように生きれば純潔な人生を送るのかを探索しなければならない。純潔な生とは、純潔な性意識が性行動に表現されることでその生が具現される。純潔な生の具現は、私たちの性意識を普遍的法則によって実践する生だと言える。

性規範とは、家庭と社会で起きる人間の性意識と性行動の基準として、案内として、理由として、方法として作用する普遍的、法則的枠だと理解した。性意識の法則は、自然と宇宙の法則を観察することによって、自然と宇宙で作用する窮極的で普遍的な法則の中で発見するようになる。²²⁾ 存在世界のすべての存在と個人、家庭そして社会の存在、作用、発展は、全ての存在を主観する宇宙の普遍的法則、即ち自然法則²³⁾と価値法則²⁴⁾を守ることによって可能になる。自然法則は、存在する宇宙と自然世界の秩序を維持するための法則であると同時に、人間の体が従わなければならない法則であり、価値法則は人間の心の秩序を維持するための法則である。価値法則は規範ともいう。価値法則を性に適用すれば、性規範になる。²⁵⁾ 統一思想で、存在の多様な法則を説明しているが、この論議では代表的に6つの普遍的法則を説明しようと思う。²⁶⁾

1. 完成に向かう成長期間の法則

統一思想は、すべての存在はその存在目的を果たすために決まった期間が必要だと説明している。²⁷⁾ 鉱物界、植物界、動物界、そして人間の存在を含めた人間社会で起きる出来事や事件は、皆その過程を通して目的を果たすようになる。地球が形成される長久な年月が流れた後に植物、動物、人間が存在するようになったという事実は、否定することができない成長過程があったということが分かる。果物の木がその実を結ぶためには、種を植えて根を下ろしてその芽が芽生えた後枝

と葉が茂り花が咲き、実を結ぶようになる。実を手に入れるためには、必ず一定期間を待たなければならない。

人間の性も例外ではない。男女の性としてその機能を発揮することができるまでは、人間の発達過程である乳児期、幼児期、児童期、青少年期を経て、夫婦の公式的な縁として公表する結婚式を経て初めて性行為や性関係が許されるのだ。²⁸⁾ 完全な性の機能を発揮するために、身体的構造と生理的機能、²⁹⁾ そして心理的、情緒的、社会的に³⁰⁾成長して成熟するために一定期間を経なければならない。

青少年性教育者、アン・ランダースはその著書で、10代の青少年たちの心理に対して説明している。³¹⁾ 10代の青少年たちは、性への好奇心と性への衝動の刺激を感じやすい時期なので、異性の交際をする時、大部分の男友達は女友達に“君の愛のしるしを見せてくれ”という意味で、性関係を要請する機会が多いというのだ。その時女友達の立場では“男らしく我慢して待つことでその愛を証明して欲しい”と男友達に頼むことを助言している。10代の青少年たちが女友達に望むことは、自分の性的欲望を満たそうとする利己心の発露が強いというのだ。彼は結婚するまで待たない性関係は、当事者たちの自制心と良識の欠如を見せること以外に何の意味もないと説明している。³²⁾

青少年たちが、結婚をして許された性関係のための成長期間を経る前に性関係を持つならば、実が熟す前にとってしまう形になり、自然法則と価値法則を破ることになる。それは身体的成長期間を待つことができなかつたことにより、自然法則を外れ、心理的、情緒的、社会的成熟が必要な成熟期間を経ることができなかつたため、価値法則、すなわち性規範を外れた性行為の立場になるのだ。結婚前まで自制力を持って、自分の性欲求をよく治めて待つ、美しい良識を備えた人格者が純潔な生を生きることが純潔性意識、純潔性態度なのである。成長期間の法則は、完成に向けて育つ青少年たちの待つ基準を教え、幸福な生の道へ案内してあげ、完成のために必ず我慢して待つ生の理由と方法を教えている。³³⁾

2. 相対性の法則

統一思想によれば、すべての存在は性相と形状、そして陽性と陰性の相対的關係を結び それぞれ存在、運動、発展、繁殖するという。³⁴⁾ 性相は無形的、機能的側面であり、形状は有形的、質量的側面をいう。³⁵⁾ 原子は陽子と電子、分子は陽イオンと陰イオン、植物は雄しべと雌しべ、動物は雄と雌、人間は男と女の相対的關係をそれぞれ持ちながら存在、作用、発展する。

相対性の法則で、動物は発情期の時繁殖のために“1:多数”の相対關係が可能な時もあるが、人間の性関係は一人の男性と一人の女性の関係のみ許される。歴史的に一部、多妻制や一妻多夫制の文化が形成された文化があるが、それは相対性の法則から外れた文化であり、正しい一夫一妻制の文化に修正されなければならない課題が残っている。³⁶⁾ 統一思想では“1:1”の關係以外の多様な關係は、すべて人間始祖の墮落による誤った相対關係であるため、未来社会の理想的關係は一男一女として夫婦の關係だけが許されると説明している。³⁷⁾

男女の相対的關係が“1:1”の關係のみを許容する法則は愛の属性のためである。³⁸⁾ 人間は愛する人に出会った時、相手を絶対に失いたくない愛の属性がある。この属性は愛する男女関係で、1

パーセントも他の異性が介入することを許さない。夫婦の愛の関係は絶対的に配偶者のみを愛することを期待していて、お互いに絶対的に唯一不変な愛、永遠な愛を願う。愛の属性を果たす夫婦関係は、信頼感が形成され、情緒的、心理的に安定する。結婚した夫婦関係で、男性や女性が婚外情事があるという事実を知ったその瞬間から、夫婦関係の信頼感が崩れるようになり、不信と対立、そして葛藤関係が始まる。

文先生は夫婦の生殖器の主人は配偶者であり、その主人が入れ替わったと教えている。³⁹⁾ 男性の生殖器の主人は女性であり、女性の生殖器の主人は男性だということだ。人間の生殖器の合一は、男女の生殖器の“1:1”の相対的關係として合一するような構造になっている。

愛の属性の中で“1:多数”の愛の関係で、性関係を除いた相対関係を許容する愛の領域がある。⁴⁰⁾ それは親が子供を愛する関係と、兄弟姉妹の愛の関係、子女の愛だ。親の愛はいくら子供が多くても皆愛することができるし、そのような愛が拡大して周りの子供たちまでも私の子供のように愛する関係を持つことができる。また兄弟姉妹の愛の関係もまた仲間の関係、友達の関係として多様な関係に拡大することができる。子供が親を愛する関係も、周りの老人たちを自分の親のように思いながら仕えて奉仕する関係を結ぶことができる。このような関係を博愛主義的、利他主義的愛という。

愛の性質の中で、ただ一人だけの愛を許容することは、夫婦愛関係の領域でのみ要請される性質だ。家庭で父母の愛と、兄弟姉妹の愛、子女の愛の領域では愛する対象が多いほど、博愛主義的愛として(鼓舞的) 高水準な愛だ。しかし今日私たちの社会の現実、相対性の法則の反対の現象が蔓延している。

一人の相対のみに性と愛を許容する夫婦の愛の法則の中では、婚前の性関係や婚外情事によって愛の秩序を破壊する様相が増えて、離婚によって壊れる現象が起きており、愛をたくさん分けるほど美しい愛の法則内では、むしろ愛を分けない性向が強くて、多くの家庭が嫁姑関係の葛藤と子供の虐待、そして兄弟姉妹の葛藤関係で家庭が不幸につながる現象が起きている。

相対性の法則は、愛の属性と生殖器の主人意識を正しく守る時、その秩序が維持されるもので、性規範的な純潔な生だといえる。相対性の法則を外れた愛の関係は、純潔な生を生きるとはいえない。相対性の法則も純潔な生の基準として、案内として、理由として、方法として、純潔な生のための作用をする。⁴¹⁾

3. 授受作用の法則

統一思想では、すべての存在は個性真理体であると同時に連体であるため、主体と対象が決まった目的を中心として相対基準を造成すれば、円満で調和を成す授受作用をなし、存続、作用、変化、発展すると説明している。⁴²⁾ このような授受作用は存在の主体と対象関係が お互い対立したり葛藤する関係ではなく、共同線を成すために共同目的を中心として相互交流して、相互補完的で、相互依存的に円満性、調和性、円滑性が成されるという。授受作用は先に相手の為にしてあげれば、戻って来ることを期待しなくても戻って来る法則である。

人間の性も例外ではないので、男女はそれぞれ男性性、女性性として違う性を持ち、真の愛の共

同線を成すために、相互補完的で、依存的で交流的な授受作用をして合一されるのだ。授受作用による夫婦の愛と性関係は、自分の為にしてもらうおうとするのではなく、先に相手の為にしてあげるため、円満な人格関係と、円滑な愛の関係を築き、愛の完成を成すようになるのだ。

夫婦関係で授受作用がよく成り立つためには、必ず一定の共通要素が中心となって、相対基準が造成されなければならない。⁴³⁾ ところで一定の共通要素を中心とした授受作用は、必ず一定の結果が現われるようになる。すなわち夫婦の愛が中心になる時、その結果は統一体、あるいは新生体が現われるようになるというのだ。統一体とは夫婦の愛が成熟する人格体として、信頼感が敦厚になり夫婦の心と体が一体を成すようになるという意味であり、新生体とは新しい性質、新しい要素、新しい現象、または新しい個体、すなわち子供を意味する。授受作用をする二つの関係はお互いに矛盾、対立、相反のような現象が現われないというのだ。

しかし夫婦の愛が共通要素として作用しなければ、外形的にいくら授受作用するよう見えても、その作用は調和性、円和性が現われず、むしろ相反と対立、葛藤が現われるようになるという。今日の家庭と社会現象の大混乱は、多くの種類の相対的關係が成されているが、授受作用ではなくお互いに利害關係の相反と葛藤の關係がその原因だ。

家庭の愛の領域の中で、一番中心になる愛の領域は夫婦の愛の領域だ。夫婦の愛の關係が葛藤し始めれば、父母の愛、兄弟姉妹の愛、子女の愛の領域にまでその影響が及ぶようになり、家庭全体が葛藤するようになる。夫婦關係が円満な愛の授受作用をするためには、先に夫婦關係において信頼關係が形成されなければならない。

夫婦關係で信頼感の形成は、婚前純潔の生から始まる。婚前に多くの性經驗を持った男女は、配偶者を信じにくい。自分の健全ではない性關係の生が、自分の心の鏡に映るため、相手を疑いやすくなるためだ。アリストテレスは自分の生の方式が自然に習慣化されるため、相手もそうだと仮定するようになるとしている。⁴⁴⁾

反対に純潔な生を送ってきた男女は、相対を自分のように純潔な人と信じるようになり、自然にお互いに信頼感が形成される。結婚した夫婦が夫婦の愛の共通要素を中心として授受作用をするためには、婚前の純潔な生と、婚後の貞節の生を土台にしてこそ円満で円滑な授受作用が可能になるのだ。⁴⁵⁾

夫婦の愛において相対のための一番尊い贈り物は、配偶者に会うまで、そして会った以後、他の異性たちの誘惑を退けて配偶者だけのために守って来た心と体の純粹さと、清い愛と性を贈ることだ。上で説明した通り、授受作用の法則、または純潔な生の基準、案内、理由、方法として作用するのだ。⁴⁶⁾

4. 目的性と中心性の法則

存在する主体と対象關係にある二つの要素は、必ず共通した目的を持っていると統一思想は説明している。そしてその目的を果たすために、その目的を中心として授受作用するとしている。⁴⁷⁾ もし二つの存在の目的が相反したら、葛藤と対立の關係として授受作用が成されなくなる。人間の性は、夫婦間の真の愛の關係を成すことを目的にするため、授受作用の中心に真の愛を置

いて夫婦の性関係が成される。万が一、どちらか一方が婚外の性関係を行うならば、目的性が違うため夫婦関係は葛藤が始まるようになる。夫婦関係でどちらか一方が性規範を外れたら、二人の信頼を土台とする愛の関係が壊れるようになる。

目的がお互いに違う夫婦は、生の内容が相反するため、その心の中に対立と葛藤の関係が形成されられるようになり、幸福な生を生きていると言えないのだ。夫婦共同体だけでなく、家族共同体、そして社会共同体が調和を成しながら、円満で円滑な関係を形成しようとするれば、必ず共同体構成員の目的が同一でなければならず、その中心に相對の為、全体の為の愛が樹立されなければならない。その中心に相對と全体の為の愛ではなく、自分自身だけの利益が占めるようになれば、共同体の構成員関係はお互いに相反する利害関係に縛られて、対立と葛藤により混乱した関係をもたらすようになるだろう。

上で論議した通り、家庭共同体や社会共同体構成員たちの平和な関係には、彼らの目的と中心に、純潔な生を土台とした愛がなければならぬ。家庭共同体の中心は、夫婦の純潔な生と愛が作用して、家族の安定した情緒と平和な環境が造成される。

純潔な家族共同体が形成されてこそ、純潔な生を生きる社会構成員による純潔な社会が形成され、社会の性の秩序が維持されるということをいくら強調しても足りない。論議した通り、目的性と中心性の法則も純潔な生の基準、理由、案内、方法として機能する。⁴⁸⁾

5. 秩序性と位置性の法則

存在する個体は必ず各々の位置、すなわち格位を持っていると統一思想はいう。⁴⁹⁾ 各個体の位置は秩序のためのもので、その存在がそれ自体の位置をよく守ることにより、全体の秩序が維持されるというのである。

統一思想は自然の宇宙秩序では、縦的秩序と横的秩序があるという。縦的秩序では微視世界の原子から、天体に至る秩序であり、横的秩序は太陽を中心した九個の惑星の配列である説明する。

⁵⁰⁾ 存在する一個体は個性真理体でありながら、同時に連体であるため、対象格位にあると同時に主体格位にもあるようになる。その結果多くの個体は上下、前後、左右で繋がりながら位置の系列が成される。このような位置の系列が秩序である。⁵¹⁾

家庭の秩序は宇宙秩序の縮小型であり、家庭秩序の拡大型が宇宙の秩序だという。⁵²⁾ 孫—子供—私(夫婦)—親—祖父母の秩序は縦的秩序で、親を中心した兄弟姉妹たちの序列は横的秩序だ。夫婦は家庭の秩序の中心の位置にある。夫婦関係の根本は、愛と性の関係であり、愛と性の関係とは対の関係であり、対の関係は愛を中心として夫婦の生殖器の合一の関係を意味する。⁵³⁾ それ故愛と性の関係において、どちらか配偶者の一人が婚外の他の対の関係を成すようになれば、その夫婦の位置を外れるようになり、秩序が破壊されるのである。夫婦関係の秩序が崩れれば、その家庭全体の秩序が揺れるようになる。

今日私達の社会は、自分の位置を外れて性の秩序を破壊する性行為や性関係が増えている。夫婦関係でのみ可能な性関係で、父親が自分の娘を犯したり、母親が息子を犯す近親相姦が数多くあり、多様な性暴行の行為が幾何級数的に増えている現象は、自分の位置を外れた逸脱行為の現象だ。秩序性と位置性を外れた性行為や性関係によって、社会の性の乱れが波及しているという事

実を否定することができなくなった。秩序性と位置性の法則も、純潔な生の基準、理由、案内、方法になる。⁵⁴⁾

6. 相互依存的階層性の法則

原理講論は、連体の概念に対して説明している。連体という幾多の次元に連係したすべての存在は、二重目的を持っているとする。⁵⁵⁾ 二重目的とは個体目的と全体目的をいう。全体目的とは互恵的、利他的作用、あるいは行為を意味する。

鉱物質は、それ自体が存在するための個体目的がありながら、一步進んでもっと大きい存在、すなわち植物のために奉仕して犠牲になるという全体目的のために存在して作用する。植物は植物個体と更に大きい全体の動物のために、動物は動物個体ともっと大きい体系の人間のために、人間個人は個体の存在目的と家庭のために、家庭は家庭の存在目的と社会のために、社会は社会の発展ともっと大きい国家のために、国家は国家個体ともっと大きい範囲の世界のために、世界は世界自体と宇宙のために、宇宙は宇宙と神様のために、神様はすべての存在のために存在して作用する。

家庭において、夫婦は各自の自我成就のための個体目的の生が保障されなければならないことは勿論だが、一步進んで家庭全体の和睦と安定、そして発展のために配偶者のための奉仕と犠牲が必要であり、彼らの子供の情緒と未来の生のために奉仕して犠牲になるようになる。夫婦は全体家庭の和睦と安定、そして秩序のためにお互い克服する努力の態度と問題解決能力を育てて行かなければならない。

父母に対する子供の願いは、母親と父親が絶対的に和合して一心、一体を成していくことだ。夫婦が葛藤して離婚に至り、また他の異性と再婚をするようになると、子供の立場では父親が二人とか母親が二人いるようになる。その時から子供達の情緒的、心理的葛藤が始まるのだ。自分を世の中に生まれるようにした父母が、継続的な愛で教育して養育してくれることを願うのが子供の本性であるためだ。

家庭共同体だけでなく、社会共同体はすべて相互依存的階層性によって、有機的關係を形成している。家庭内での秩序は家族構成員たちの和睦と団合を成すことが基礎になる。和合体を成した家庭は、社会共同体と相互關係を結んで、尊属して発展するようになる。一つの家庭が社会共同体と望ましい相互協調的な關係を成すためには、その家庭の構成員たちの關係が秩序を成して和合を成すことで可能になる。上で論じたように、家庭の和合の核は夫婦關係であり、その核心的要素が愛と純潔な生なのである。即ち純潔な生の基準、理由、案内、方法は相互依存的階層性の法則の機能だ。

上で論議した六つの普遍的法則は、お互いに連結の輪を成して一緒に作用する。どれか一つの法則でも無視され、その法則を外れるようになれば、構成員たちがその法則を外れた内容の分だけ葛藤と苦痛を経験するようになるのである。六つの法則の中で、特に純潔の核心的意味と係わる法則は、成長期間の法則と相対性の法則、そして授受作用の法則だと言える。純潔な生をどのように生きなければならないかを探索するにおいて、当然守らなければならない当為的で、必要な

六つの普遍的法則を構成員たちが実践するようになる時、この法則は純潔な生の基準として、案内として、理由として、方法として作用して、純潔な性の具現体になることができるということを理解するようになった。⁵⁶⁾

IV. 純潔な性の具現のための提言

最近私達の社会は、歪曲された性文化の情報が濾過されることなく降り注いでいる。私たちの子供達の周辺の社会的環境は、積もり積もった淫乱物が洪水を成して、享乐的な性の商品化による歪曲された性意識と性価値観を青少年たちに認識させる性の社会化の媒体として作用している。⁵⁷⁾ 歪曲された性文化情報による性知識の蔓延が、社会的逆機能の作用をして、私達の社会に性暴行、スワッピング、同性愛、同棲文化、青少年の性売買などの逸脱した性そのまま露出している。性は守らなければならないのではなく、楽しんで現わす対象だと、間違っ理解している既成世代たちの性意識をそのまま受け継いだ青少年たちの性問題が、ますます深刻に増加している。この節で性問題を根源的に解決することができる方案は、純潔な性の具現にあるということ論議することにより、家庭と学校で性規範教育の必要を提言しようと思う。

家庭は社会の一番基本的な単位の共同体として、人間の知能、性格、身体、情緒形成の重要な土台を成す。家庭が本来の真の機能を失うようになる時、成長する子供たちの混乱が惹き起こされる。⁵⁸⁾ 伝統社会において、家庭は大家族の形態の中で縦的、横的關係の多様な人間関係を自然に経験する生活基盤であり、規範教育の場として情緒的、知的、性格的に安定した成長と発達が可能な所だった。⁵⁹⁾

しかし現代の大部分の家庭は、このような機能の遂行が難しい状況だ。核家族形態の家庭において、親たちが共稼ぎしながら子供たちと話し合う時間が減っているし、家族が一緒に情があふれる食事をする時間的余裕を持ちにくい環境に加えて、親たちの子供たちに対する望ましい養育態度は期待するのが難しい。⁶⁰⁾ 現代家庭において、家庭の機能の中の性規範に対する子女教育は見つけにくい。性談論自体をタブーとする我が国の家庭の雰囲気、親たちが成長する子供に性的話をする事自体恥ずかしがる雰囲気であるためだ。しかも欠損家庭や、子女教育が弱体化された家庭、あるいは経済的に貧困な家庭は親の無関心から、子供たちに性規範教育が成り立つことを期待しにくい。

家庭で子供たちの歪曲された性意識と性態度を正しく樹立することを期待しにくければ、学校でその役目を遂行しなければならないだろう。しかし学校教育において、1983年以後現在に至るまで、学校性教育指針書には純潔という用語を見つけることができなくなった。⁶¹⁾ 純潔は旧世代の前遺物と思われ、これ以上純潔を強調しないことが今日の学校性教育が志向する価値中立的性教育観だ。それ故、学校で性教育に対する関心が増えて、性教育が実施されているにもかかわらず、望ましい価値観の純潔な性が何なのかに対して、思考して判断する機会が足りないのが実状だ。今まで性教育者たちと性倫理学者たちが、私たちの社会の多様な性問題を解決しようと努力して来たが、今日の既成世代を始めとして、青少年に至るまで性問題は日増しにその類型が多様になり、量的な増加の勢いが止まらず、性問題をそのまま放置しておいたら家庭と社会的苦痛と性規範の解体を経験する国家的次元の災害に会う可能性を否認することができない。⁶²⁾

我が国の性問題解決の接近法は、大部分が法律的、制度的変化によって歪曲された性問題が解決されるはずだという考えを持っている。法律を変えて制度を改善する方案は、性行為問題の結果的側面にその解決の焦点を合わせるため、取り締まりと処罰を主とする防止策は、既成世代たちの性の商品化問題と青少年たちの性の逸脱問題の解決には限界がある。性行為の結果に対する処罰を主とする制度的防備策は、個人から社会的次元 性問題の原因と、形成過程の動機に対する根本的対案になることができない。この歪曲された性意識を根本的に治癒することができる純潔な性の具現のために、性規範教育実施に対する提言をしようと思う。

第一に、性の秩序は共同体構成員の性意識と性態度によって形成される。性の秩序を維持するためには、人間が必ず守らなければならない普遍的法則、すなわち性規範を遵守する生が、純潔な性意識と性態度を持った生だと上論した。家庭の性秩序は社会共同体の性秩序の根幹になるため、家族構成員が性規範による純潔な性意識と性態度を持って性の秩序を維持したならば、私達の社会は健全な性の秩序を維持するようになるだろう。

家庭、学校、社会で正確で正しい性行為の基準を教え、純潔な生の案内をして、純潔な性態度を持たなければならない理由と方法を教える、性規範教育を実施しなければならない。即ち、上論した六つの普遍的法則を守る純潔な性意識を樹立する手助けを講じなければならない。

IEF 教育機関の研究報告によると、普遍的法則を守る性意識が樹立される時、その意識が性行動に影響を与えるため、利己心と過消費を克服することができ、節制力を培うことができるため、待つことの美しさを認識することができるようになり、成功的な結婚生活に影響を与えるとしている。⁶³⁾ アメリカの性倫理学者、アンドリュー・ウィルソン(Andrew Wilson)は、今までアメリカだけではなく西欧の多くの国々が、学校で価値中立的性教育を実施したために、青少年たちが正しい性意識を樹立することができなかつたと述べながら、青少年たちが正しい性意識と性態度を持つためには、必ず性の節制意識を持つ性価値観教育が必要だと強調している。⁶⁴⁾

第二に、家庭では親自身が性に関する正しい知識がないため、性規範教育を実施するのに難しさを経験するようになる。しかし親が先に上論した普遍的法則を知って実践することにより、日常的に子供たちに性規範教育を実施しなければならない。⁶⁵⁾ 模倣性向が強い3-4歳の幼児期から思春期に至るまで、親の言行を通して規定された教育通路と、親のモデル的生を通じた潜在的教育通路によって、子供達の正しい性意識形成のために性規範教育が実施されなければならないだろう。

青少年たちが性行為に対して正しく決定するためには、性規範的基準と案内、そして明らかな理由を知って、正しい生き方を教えてくれる普遍的法則の教育が必ず必要だ。もし性規範の基準が明瞭でなかつたり、性規範的生、すなわち純潔な生をなぜ送らなければならないのかをはっきりと認識しなければ、青少年たちの間違った性行動的判断につながる。また彼らに純潔な生のための明瞭な案内と方法を教えなければならない。青少年たちが一回の逸脱した性行動によって、一生を苦痛の中で生きていくという愚を犯さないように指導することは、親の義務であり権限だ。

第三に、教育専門機関としての学校の役目は、一番大きくて重要な位置にある。学校の性教育で相手を人格体として尊重して、性が価値があつて大切なことだと悟って実践するようにする、純

潔な性意識と性態度を樹立するように、性規範教育が実施されなければならない。普遍的法則による性規範教育が学校で成されない限り、未来社会において青少年たちが性の秩序を正しく立てることは期待しにくいだろう。

学校教育において、性規範教育を週毎の正規授業時間に実施しなければならず、そのために政府と学校は中長期的対策を推進しなければならないだろう。その対策として、教科課程の改編により性規範教育を正規教科過程に入れなければならない。現在我が国は、教育庁で年間15時間内外の性教育を実施するように勧奨しているが、特別活動や代替学習になることが日常化している。

⁶⁶⁾ 体系的で持続的な教育のために、性規範教育を正規教科目に設定しなければならない。

第四に、性規範専門教師養成が必要だ。教育大学院、教育大学及び一般大学の教職過程に性規範専攻過程を設置して、一般教師が履修するようにして、性規範教師資格証を取得できるようにしなければならない。学校に配置されている養護教師や保健看護師たちが教員研修院を通して性規範教師資格研修過程に参加して、資格証を取得できるようにすることが望ましい。教育学で言うように、教育の質は教師の質に勝ることはできないため、性規範専門家養成は純潔な性文化造成のための最大の鍵だと言える。

最後に性規範教材と、教授—学習資料開発普及が急がれる。性規範指針書が、全体の教師はもちろん、学生たちに普及され、学生たちが直接読んで自ら学習するようにしなければならないだろう。従って学校内に性規範学習コーナーを設置して、学生たちがいつでも知りたい時に読むことができるようにすることが望ましい。合わせて性相談室の機能を活性化して、学生たちに正しい性知識と性情報を習得するようにして、性意識と性態度の変化を模索しなければならない。

V. 終わりに

上で論議した通り、普遍的法則を守ることは純潔な生を具現する生であり、すべての構成員たちが純潔な生を実践する時、歪曲された性意識と性態度を根本的に解決することができる方案になるということを理解するようになった。私達の社会において、先に性問題を起こす多様な歪曲された性情報を提供する構成員たちと、逸脱した性行為を触発させる人々、そして間違った性知識をそのまま伝授されて性衝動と性欲求によって行動する様々な年令層と階層の性意識を、純潔な性意識に正しくしなければ、性の秩序は立てられにくいということを論議した。

性の秩序が正しく立てられてこそ、家庭と社会共同体の安定と発展を約束することができる。性の秩序回復のために、法的、制度的な接近として、取り締まりと処罰を主とする問題解決方案は限界点があるため、根本的解決方案として性行為の動機と原因を調節することができる性意識を正しく樹立するために、その焦点を合わせなければならないということを強調しながら、純潔な生のための純潔な性規範教育の実施を提言した。

純潔な生の純潔な文化を樹立するために、個人と家庭、学校、社会共同体の積極的な協力は、非常に重要で切実な問題だ。普遍的法則による純潔な生の具現のために、純潔性規範教育を必修的に教育する専門家たちの実践的で献身的な努力が中断されないように、政府の法的、制度的支援

が急がれると言える。

주 석

1) 문상희, 「심정과 규범의 대학교육: 애천, 애인, 애국의 건학이념의 구현을 중심으로」、韓鶴子 還曆記念集 (ソウル: 成和社, 2003)、363페이지。

문상희は規範の意味を次のように整理した。“規範は人間自身の人格成熟と人間関係と関連して、期待される道徳的倫理的行為、すなわち徳目の絶対的(準拠)준거であり、案内であり、理由であり、そして方法だ。”ここで言う規範は文化、時代、思想、宗教、人種を超越して適用される普遍的な法則から、価値法則をいう。人間なら“当然しなければならないことと、してはならないこと”を教える法則だ。規範を性に適用すれば、性規範は純潔な人生の基準、案内、理由、方法になることができる。

2) 純潔は人間の生の徳目の中の一つだ。性規範の意味は、人間が純潔な生を生きる基準であり、純潔な生を生きなければならない理由を教えてくれ、純潔な生へ案内して、純潔に生きる方法を教えてくれる機能をする。

3) 남기영, 허우성, 김수중, 정연고, 최정식, 인간이란 무엇인가: 사회생물학, 플라톤, 유가, 불교, 기독교를 통해 본 인간 (서울: 민음사, 1997)、266-267페이지。

4) 윤가현, 성 문화와 심리 (서울: 학지사, 2002)、489-491페이지 参考。

5) 이성희, 한희선, 「청소년 성교육프로그램 개발을 위한 기초연구」、자원개발연구소논문집 제2권 제1호, 1996、35-46페이지。

6) 私たちの社会の性問題が家庭と学校現場で発生している。2008年の大邱の小学校の集団性暴力事件や墮胎と未婚の母の急増がこれらを(反証)반증している。

7) 문상희, 「심정과 규범의 대학교육: 애천, 애인, 애국의 건학이념의 구현을 중심으로」、韓鶴子 還曆記念集 (ソウル: 成和社, 2003)、364페이지。

8) 한태선, 「조선전통사회의 신분독점과 이에 따른 규범문화형성」、한국사회의 규범문화 (서울: 한국정신문화연구원, 1983)、200-202페이지。

9) 社会を構成している一番基本単位は家庭だ。したがって家庭の性秩序は社会の性秩序の根幹になる。家庭の構成員である男性、女性が社会のあらゆる誘惑があつたとしても、性の秩序を固く守るならば、社会の性秩序は自然に成される。

10) 存在の6つの普遍的法則を探索するとき、普遍的法則、即ち性規範をきちんと守る人生がすなわち純潔な生だと理解するようになる。

11) 純潔という用語の英語表現は、汚れのない状態(Innoce)、法に反した性的な行動を一切せず、姦通しないこと、または童貞、処女性を守ること(Chasitivity)、心の潔白な状態(Purity)を意味するとある。しかし欧米で性教育(Sex Education)という用語はあっても、純潔(教育)(Chasitivity Education)という用語は使わない。性教育が広範な人間教育だと見るため、性の節制の意味としての節制教育(abstinence education)がある。

12) 박종신, 「순결, 그 아름다운 성 이야기」, (서울: 진흥출판사, 1997), pp. 20-22

13) 문상희, 「통일사상으로 본 순결학의 이념과 교육내용을 위한 시론적 연구」、통일사상연구논총

아산:선문대학교, 2002)、189ページ。この論文で純潔学の純潔概念の定立を歴史上初めて試みる。

14) 李相憲、統一思想要綱(ソウル:成和社、1993)、227ページ。

15) 統一思想は神様の姿を(神々相)と神性に分けて具体的に説明する。神相は性相と形状の中和的統一体、陽性と陰性の調和的統一体、そして個別相として説明している。性相は無形的、主体的、内性的、原因的であり、形状は有形的、対象的、外形的、結果的だと理解する。性相的な作用の中に生心があり、形状的な作用の中に肉心がある。

16) 統一思想において、人間の心は生心と肉心で構成されており、生心は霊人体の心の作用であり、肉心は肉体の心の作用であるという。生心は知、情、意、愛の機能をしながら、それぞれ真、美、善、愛の価値を追求して実現する作用をすると説明する。肉心は衣、食、住、性の価値を追求しながら実現する作用をするという。

17) 문상희, 앞의 글, 190페이지。

18) 人間は原状、即ち神様に似て、主体格位と対象格位を持つようになる。人間はまず親の前に対象格位として生まれ、成長した後に親になって子女を生むようになる時主体格位になる。社会共同体でも下位の対象級から出発して上位の主体級に上がるのである。格位は心的態度が要求されるが、対象意識は神様に侍る心、忠誠心、孝誠心、尊敬心、服従心があり、主体意識は対象に対する関心、愛する心、適切な権威心などがある。

19) 人間は個性真理体として、別の個性真理体と関係を結んでいる。このような個体を連体という。連体は構造から見た連体、目的から見た連体、関係の方向性から見た連体として具体的に説明できる。

20) 統一思想研究院、統一思想要綱189ページ。

21) 格位から見た連体としての人間は、上下、前後、左右の6方向から連体としての位置が決まる。神様の真の愛と一体を成した私を中心として見た時、上の方向に親、上司、年長者いて、下の方向には子女、部下、年下がいる。前には師匠と指導者、先輩がいて、後には弟子と後輩、自分の追従者がいる。右側には兄弟と友達、仲間がいて、左側には自分と意見が合わない人、反対する人、性格が一致しない人々がいる。このように他人と関係を結んで存在する。

22) 統一思想研究院、統一思想要綱、221-222ページ 参考。

23) 統一思想は存在世界の宇宙を含んだすべての存在の作用、発展、繁殖を支配する宇宙の普遍的法則があるという。その普遍的法則は、宇宙の自然界と、人体を支配する自然法則があると説明する。この法則を天道ともいう。

24) 統一思想は普遍的法則の中で、人間社会にだけ作用する法則があるが、人間の心を主観する法則を価値法則だと説明する。この法則を天道ともいい、規範とも表現する。

25) 価値法則、すなわち規範を学校に適用すれば、教師-学生の規範になり、会社に適用すれば企業の規範にもなる。価値法則は人間社会の多様な共同体において多様に適用できる。

26) 統一思想は宇宙を支配している法則を天道または天法ともいうが、これは主体と対象の円満な授受作用を始めとする多様な存在法則をいう。原理講論では、創造原理による成長期間と相互依存的、階層性の法則と多様な法則を語っている。この論考は統一思想要綱と原理講論で説明する宇宙の法則を整理し、その中で代表的な6つを語るものだ。

27) 世界基督教統一神霊協会、原理講論(ソウル:성화사、1993)、56-58ページ 参考。

28) 김양희·이영실, 결혼과 가족(서울:중앙대학교출판부、2002)、132ページ。

我が国での結婚の意味の中に、夫と妻が性関係をもっても良いという性関係許容の意味がある。しかし多くの人々がこのような決まりを破りながら、婚前性関係をもつて性の秩序を混乱させているのだ。

29) 人体の生理的機能と生殖作用は、普遍的法則の自然法則によって作用、繁殖する、

30) 心理的、情緒的、社会的成熟は、普遍法則の価値法則によって発展する。統一思想はこの価値法則を人間社会でのみ作用する規範として説明する。特に性と係わる価値法則は性規範といえる。

31) 안·랜더스, 오경수 역, 10대 사랑과 순결의 대화(서울:가정문고사、1981)、52-53ページ。

32) 안·랜더스, 10대 사랑과 순결의 대화、53ページ。

- 33) 青少年たちが未来の幸せな家庭を築くために必ず守らなければならない法則が成長期間の法則だ。この法則は、完成に向けて待つ基準を教え、幸せな生の道案内をして、完成のために必ず従わなければならない理由を提示して、我慢して待つ生の方法を教えてくれている。
- 34) 統一思想研究院、統一思想要綱、222ページ。
相対性の法則も自然法則と価値法則と一緒に適用される。例えば同性愛の場合は、自然法則と価値法則をどちらも外れた行為として見るができる。自然法則は対の制度として、雌しべと雄しべ、雌と雄が一体を成して、作用、繁殖、発展することと同じく、人間も男と女の関係が1:1の関係として夫婦関係を結ばなければならない。同性愛の性行為が肛門を通して行われることは、自然法則を破ることだ。肛門は大便が出る穴として作用するように造られている。陰茎が肛門に入って行くように造られていないということだ。また同性愛の対を成すことは、一人の男性と一人の女性の関係で合一を成さなければならない価値法則を脱している。
- 35) 世界基督教統一神霊協会、原理講論、30-33ページ 参考。
- 36) 統一思想では、男女関係が必ず 1:1 の関係を持つことで性の秩序を維持することができると思っている。なぜなら愛の属性は絶対、唯一、不変、永遠の性質があり、男女がお互いに愛する関係において、誰も第三者が介入する三角関係を願わないからだ。それ故愛の属性がそうなので、一妻多夫制や一夫多妻制は愛の葛藤が起きる関係であるため、安定して発展的な関係的生のために永続することができないのである。
- 37) 文鮮明、平和メッセージ 10 (ソウル: 成和社、2008)、165-190ページ 参考。
- 38) 文鮮明、平和メッセージ 10、169-171ページ 参考。愛の属性は、絶対、唯一、不変、永遠の性質を持っている。
- 39) 文鮮明、平和メッセージ 10、169-170ページ 参考。
- 40) 문상희, 「이상가족관계형성을 위한 사랑의 가치관」, 몽골반점동족과 세계평화 (서울: 몽골반점동족연합출판, 2006)、362ページ。
- 41) 男女の関係が1:1の相対性の法則通りに生きこそ、純潔な生による苦痛と葛藤のない幸福な生を送ることが出来るため、この法則も私達の生を幸福に案内し、純潔に生きる理由を語り、純潔な生の基準を提示し、その法則通りに生きなければならないという方法を教えているのである。
- 42) 統一思想研究院、統一思想要綱、84ページ。
- 43) 統一思想研究院、統一思想要綱、85ページ。愛が共通要素になることができ、価値観が共通要素になることができるのであり、趣味生活や性格が共通要素になることができる。多様な共通要素を中心に夫婦が合意を成して授受作用を成すことでお互いに発展するのである。
- 44) 피터·싱거著, 김성한, 김성호, 소병철, 임건태 옮김, 규범윤리의 전통 (서울: 철학과 현실사, 2005) 15-16ページ参考。
- 45) 純潔の意味で詳論した通り、愛の完成のための出発であり、基礎であり、土台は純潔な生であるためだ。
- 46) 夫婦間でお互いに先に愛して後で返してもらふ法則は、純潔な生を通して夫婦の幸福な生を送る基準であり、理由であり、案内であり、方法になる。
- 47) 統一思想研究院、統一思想要綱、222ページ。夫婦関係において子供を何人生むか、家はいつ頃用意するか、舅姑に侍って暮すのか、夫婦が共稼ぎの場合家事の役割分担をどのように分けるのか、一ヶ月に外食は何回するのか、などの大小の多様な目標を設定して、夫婦と一緒に努力する家庭が睦まじく、発展する家庭になることができると、家庭と結婚の専門家、이정우, 김명자가説明している。
- 48) 夫婦が真の愛を成す同一の目的を持って、貞節を守りながら生活する時、睦まじくて幸せな家庭を築くことができるため、目的性と中心の法則も夫婦の純潔な生の基準と理由と案内と方法を語っている。
- 49) 統一思想研究院、統一思想要綱、223ページ。
- 50) 宇宙の縦的秩序では、月(衛星)と地球(惑星)が対象と主体の関係で授受作用する。地球は太陽と

授受作用し、他の惑星と太陽系を形成する。太陽は他の恒星と授受作用して銀河系を形成する。銀河系は他の多くの銀河系と共に宇宙の中心部と授受作用して宇宙全体を形成する。この時、月(衛星)、地球(惑星)、太陽(恒星)、核恒星界、宇宙の中心につながる系列が宇宙の縦的秩序だ。宇宙の横的秩序は太陽を中心に水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星など九個の惑星が横的に秩序をもって配列している。太陽を中心に惑星間の配列が太陽系の横的秩序だ。

- 51) 純潔の広義の意味で格位的、連体的存在に対する説明があったので詳しい説明はしない。
 - 52) 統一思想研究院、統一思想要綱、218-219ページ。
 - 53) 文鮮明、平和メッセージ 10、168-176ページ。
 - 54) 家庭の構成員たちの位置が決まっていて、その位置によって義務と権限が違う。そのため各構成員がその位置に合った役割を果たすことで秩序が維持される。秩序性と位置性の法則も純潔な生のための基準、理由、案内、方法を教えている。
 - 55) 世界基督教統一神霊協会、原理講論、52ページ。
 - 56) 家庭と社会の構成員たちが有機的關係として相互依存的に協調的關係にあり、より大きい存在のために奉仕して犠牲になる時、全体社会は発展する。六つの普遍的法則は、純潔の当為性と必要性を内包していて、人間が幸福を享受するために当然に守らなければならない天道であり、天法として作用する。
 - 57) 이성희·한희선, 「청소년 성교육프로그램 개발을 위한 기초연구」, 자원개발연구소논문집 제2권 제1호, 1996, 35-46ページ。
 - 58) International Education Foundation, Building Healthy Marriages(Moscow: IEF, 2002)、p. 35-42。
 - 59) 한국가족학회, 가족학(서울: 하우출판사, 1999)、104-107ページ。
 - 60) 최인숙, 훈련중심 부모교육프로그램(서울: 교육과학사, 2006)、156-158ページ。
 - 61) 1983年以後、現在に至る学校性教育指針書をみると、純潔の用語を見つけない。
 - 62) 김상원, 성교육/성상담의 이론과 실제、35ページ。
 - 63) International Educational Foundation, My Journey in Life(Moscow: IEF, 2002)、p. 220-229。
- この本でソ連と東ヨーロッパ地域、そして中国の青少年たちが、正しい性規範教育を受けた後に純潔な生を生きるのはもちろん、健康な結婚生活を営んでいるという研究報告がある。
- 64) Andrew Wilson, Cultivating Heart and Character(Chapel Hill, North Carolina: Character Development Publishing, 2002)、pp.6-8。我が国の性教育も、2002年度教育人的資源部で発刊した性教育指針書を見れば、性行為の決定を全面的に学生自らに任せる価値中立的性教育を実施するようになる。性の決定者は性の主体性を持った学生が、是非を判断して性行為の結果を学生自ら責任を持つように教育するようになる。
 - 65) 최인숙, 훈련중심 부모교육프로그램、230-258ページ。
 - 66) 김상원, 성교육/성상담의 이론과 실제、32ページ。

参考文献

- 김상원 성교육/성상담의 이론과 실제。서울: 교육출판사。1999。
김양희, 이영실, 결혼과 가족。서울: 중앙대학교출판부。2002。
남기영, 허우성, 김수중, 정연고, 최정식, 인간이란 무엇인가: 사회생물학, 플라톤, 유가, 불교, 기독교를 통해 본 인간。서울: 민음사。1997。
문상희, 부모자녀 함께 이루는 절대성。이산: 鮮文大大学校。2007

- 문상희. 「통일사상으로 본 순결학의 이념과 교육내용을 위한 시론적 연구」. 統一思想研究論
총 아산: 鮮文大 학교. 2002.
- 「이상가족관계형성을 위한 사랑의 가치관」. 몽골반점동족과 세계평화 。 서울:
몽골반점동족연합출판. 2006.
- 「심정과 규범의 대학교육: 애친. 애인. 애국의 건학이념의 구현을 중심으로」. 韓鶴子 還曆
記念集 。ソウル: 成和社. 2003
- 文鮮明. 平和メッセージ 10 。ソウル: 成和社. 2007.
- 박종신. 순결. 그 아름다운 성이야기 。 서울: 진흥출판사. 1997.
- 世界基督教統一神靈協會. 原理講論 。ソウル: 成和社. 1987.
- アン・ランダース. 오경수 역. 10대 사랑과 순결의 대화 。 서울: 가정문고사. 1981.
- 윤가현. 성 문화와 심리 。 서울: 학지사. 2002.
- 이상현. 統一思想要綱 。ソウル: 成和社. 1993.
- 이성희. 한희선. 「청소년 성교육프로그램 개발을 위한 기초연구」. 자원개발연구소논문집
제2권 제1호 1996.
- 최인숙. 훈련중심 부모교육프로그램 서울: 교육과학사. 2006.
- 피터싱어 엮음. 김성한. 김성호. 소병철. 임건태 옮김. 규범윤리의 전통 。 서울: 철학과
현실사. 2005.
- 한태선. 「조선전통사회의 신분독점과 이에 따른 규범문화형성」. 한국사회의 규범문화. 서울:
한국정신문화연구원. 1983.
- International Education Foundation, Building Healthy Marriages. Moscow: IEF Co. 2002.
- International Educational Foundation, My Journey in Life. Moscow: IEF Co. 2002.
- Andrew Wilson, “Promoting Directions for Character Education” Cultivating Heart and
Character. Chapel Hill, North Carolina: Character Development Publishing. 2002.
- International Educational Foundation, Ethics of True Love and Sexuality. Moscow: IEF Co.
2002.